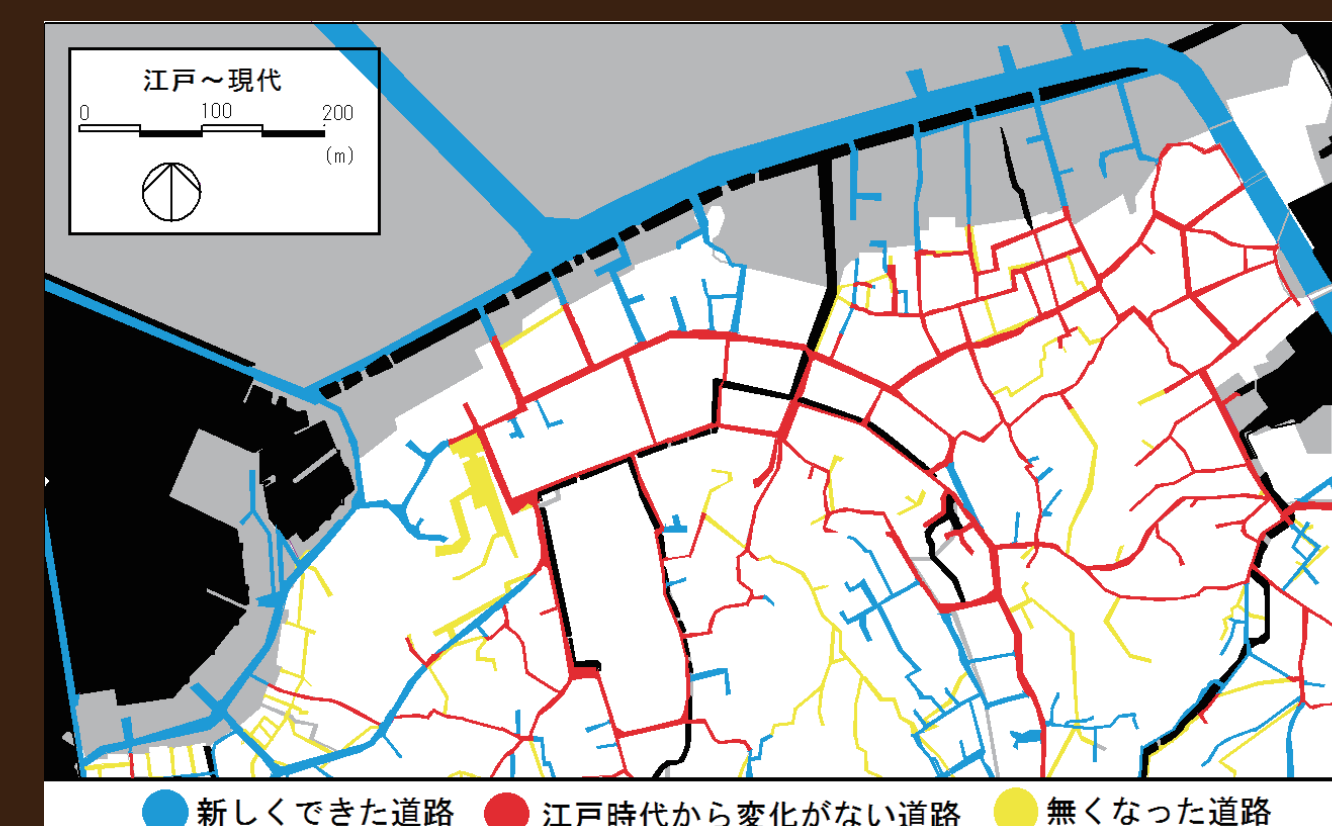


# 城下町深堀の形成と現在

Nagasaki City Landscape Focus Area - Fukahori  
Formation of the Castle Town Fukahori



かつての武家屋敷通り  
(出典：長崎市編入50周年記念事業実行委員会)



上：近世からの道路の変遷

左：長崎湾入口の要であった深堀。  
深堀は絵図左下に確認できる。  
(正保四年黒船(長崎来港図))  
(長崎歴史文化博物館収蔵)

## 深堀の成り立ち

深堀には縄文時代の遺跡が確認されており、原始・古代から人々が暮らしていたことがわかっています。この地はもともと戸八浦と呼ばれていましたが、鎌倉時代に深堀能仲が地頭として任命されたことに因み、深堀と呼ばれるようになりました。深堀氏は自身の居城を中心とした城下町を形成し、それが今日の深堀の街並みの基盤をなしています。長崎湾の入口に位置する深堀は、江戸

時代には湾に出入りする船を監視する海防の役割を担っていました。1871年、深堀は長崎県の管轄となり、1955年には長崎市に編入され、1967年には深堀から香焼間の埋立てが完工し、現在の陸域が形成されています。深堀の中心部には現在でも城下町の面影を残す道が多くカギ型の道路と、屋敷を取り囲んでいた石塀を見ることができます。